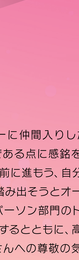
AJCC50回記念大会特別企画

オーナーオペレーター戦の舞台裏

AJCC50回記念大会特別企画として、今年はオーナーのオペレーションや法人内審査率を競う「オーナーオペレーター戦」を開催。いち早く応募してくれた日本マクドナルド フランチャイジーのFFFJ株式会社 川村 竜司オーナーに、意気込みやAJCCにかける想いを伺いました！



日本マクドナルド
フランチャイジー
FFFJ株式会社
オーナーオペレーター
川村 竜司さん

オーナーオペレーター戦に参加しようと思ったきっかけや、意気込みを聞かせてください！

約2年前にオーナーとしてマクドナルドファミリーに仲間入りした際、AJCCが「技術大会」ではなく「人を育てる文化」である点に感銘を受けたことがきっかけです。また、今年のテーマである「前に進もう、自分らしく」という言葉にも背中を押され、ぜひ自分も一歩踏み出そうとオーナーオペレーター戦への参加を決意しました。ポテトパーソン部門のトレーニングを受ける中では、その難しさや奥深さを実感するとともに、高いレベルでオペレーションを実行しているクルーの皆さんへの尊敬の気持ちが一層大きくなりました。

今年のAJCCに向けては、法人としてどんな準備をしたのでしょう？

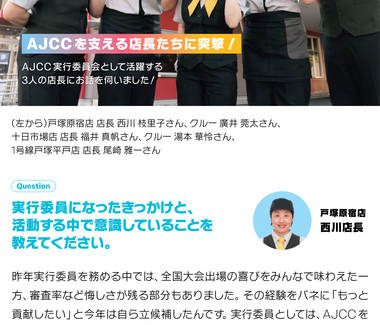
人材育成の大切な機会として法人全体で取り組む体制づくりを進めました。そのーつが、昨年から設置しているAJCC実行委員会です。法人内の公募で集まった店長たちが中心となり、審査率やエキスパート率の向上に向けた施策の展開や、OC戦・法人戦の運営を推進しています。店舗の垣根を越えて刺激を受け合えたことが、各店舗やクルーのさらなる前進のきっかけになったと思います。

日頃からクルーの育成に向けてどのようなことに取り組んでいますか？

人への投資こそが会社の成長につながると考えているため、人が育つ環境づくりを何より大切にしています。店舗では店長やマネージャーが日々コーチングを行うとともに、マクドナルドらしい文化の一つである「レコグニション」を通じて次の成長につなげています。AJCCやdCDPなどの仕組みも活用し、「学ぶこと」「成長すること」が楽しいと感じられる環境づくりにこれからも尽力していきます。

あらためて、AJCCはクルーにとってどんな機会だと思いますか？

AJCCは、クルーー人ひとりが主役になれる機会です。目標に向かって努力を重ねる中で自信を育み、仲間と支え合いながら成長していきます。また、トレーニングを担う側にとっても、人を育てる力を磨く貴重な経験となります。昨年は法人から全国戦優勝者も誕生し、AJCCへの機運は非常に高まっています。ここを次の挑戦への起点として、一人でも多くのクルーが自分らしく挑戦してくれるとうれしいです。



AJCCを支える店長たちに突撃！

AJCC実行委員会として活躍する3人の店長にお話を伺いました！

（左から）戸塚原宿店 店長 西川 枝里子さん、クルー 廣井 莞太さん、
十日市場店 店長 福井 真帆さん、クルー 湯本 華怜さん、
1号線戸塚平戸店 店長 尾崎 雅一さん

Question

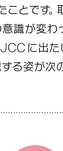
実行委員になったきっかけと、活動する中で意識していることを教えてください。

戸塚原宿店
西川店長

昨年実行委員を務める中では、全国大会出場の喜びをみんなで味わえた一方、審査率など悔しさが残る部分もありました。その経験をバネに「もっと貢献したい」と今年は自ら立候補したんです。実行委員としては、AJCCを単なる大会で終わらせず、クルーー人ひとりが前向きに挑戦するきっかけにしたいと考えています。そのため、みんなが競い合い一緒に盛り上がれるような、楽しい施策の展開を心がけています。

Question

各店舗におけるAJCCの取り組みや印象的なエピソードは何でずか？



1号線
戸塚平戸店
尾崎店長

印象に残っているのは、実行委員として他店舗へ足を運び、その店舗のマネージャーたちと一緒に審査やフィードバックを行ったことです。取り組みを重ねる中で審査数も徐々に伸びていき、店舗全体の意識が変わってきた手応えを感じましたね。また、自店舗のクルーから「AJCCに出たい」という声が上がったことも印象的でした。先輩たちの挑戦する姿が次の世代につながっていることを実感しました。

Question

今後の目標をお願いします！

十日市場店
福井店長

十日市場店は法人戦の会場店舗であり、昨年は私も仲間たちも、多くのクルーや実行委員の皆さんが一つの目標に向かって取り組む姿を間近で見てきました。あらためて、AJCCは一人でつくるものではなく、みんなでつくり上げていくものだと感じます。今年は実行委員の一人として、一人でも多くのクルーが「挑戦してみたい」と思え、その挑戦をみんなで応援できる組織を、仲間と共につくり上げていきます。

© McDonald's